

製本のススメ

Vol. 19

旧盆の頃は毎年お天気がスッキリしませんね、ゆっくり休めた人も、頑張っただ遊んだ人も、シャキッと気分を入れ替えて、暑さに負けずに仕事モードに切り替えましょう。いよいよ後半戦の開幕です。

今回は**前回見本**と**今回折丁**(折込)のお話

印刷が出来上がったときに、皆さんは印刷の出来栄を確認する為に、各頁を1枚抜いてみると思います(当然ですね)これを、ページ順に折り、丁合したものを製本へ【**一部抜き**】として渡しますね。これが、**製本加工にとっては、必要不可欠!**

仕上り寸法は「トンボ」がありますから、何処で仕上げればよいか判りますし丁合見本(一部抜き)があるわけですから、付き物(扉や別丁など)入れ込む場所も一目でわかります。

逆に 前回見本と称して出来上がった前号をもらっても、**まったく同じ再販でない限りあまり参考にはなりません**。ページ数も違えば、内容も変り、内容が変れば、付き物の位置も変る事が有るためです。せいぜい背文字の位置を前号と合わせる程度ですが(面(ツ)合わせ)それさえも、表紙のトンボで合わせれば、問題は無いはずですが

時おり 外注印刷をすることもあるでしょう。その際にも、なるべく一部抜きを作って製本へ手配しておきましょう。このときに、**別所での印刷がある場合には、それも含めた完全な一部抜きが必要です**。特に外注印刷から直納される刷り本は 多くの場合一部抜きは添付されてきません。(皆さんの下へ刷り見本が送られていると思います)それらを面倒がらずに いち早く加工所へ手配しておくことが 成功への近道!

(面倒だからと台割表だけFAXしていませんか?これは、結構 勘違いの素なのです)

製本加工場では、本の内容を見ません。これは、印刷の皆さんには、理解していただきたいのですが 読んでいたのでは仕事になりませんから、常に何頁の後ろに何が付くとか 全部で折が何台というような仕事をいたします。

ですから、前号だけを預かっても さほど役立たないというのが、お判りかと思えます。

ぜひ**今回折丁(一部抜き)の作成を お勧めいたします**。



Tea break

演歌のカラオケでよく字幕に「あゝ」なんて繰り返すときにでてくる「ゝ」の正式名称を知っていますか?これは[ひらがながえし]と言います。一の字点とも言うそうです。これに濁点が付くと【ゞ(ひらがながえしだくてん)】となります。その他「カタカナがえし」や「漢字がえし」もあるそうで、日本語は難しいですね (^ゝ)

by (株) 井関製本